







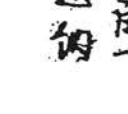
軍事極秘

マ駐安第五十四號



マングレー 駐屯地勤務方規定

乙 通覽

	一五
	一六
	一七
	一八
	一九

新案第...
 一...
 一...
 一...

駐屯地司令
 十年一月二日

第29號



マ駐屯第五十四號

「マングレー」駐屯地勤務規定制定件送達

「マングレー」駐屯地諸部隊殿

「マングレー」駐屯地勤務規定本冊 通鑑定 昭和三十二年

一月十一日ヨリ又ノ發行ス

「マングレー」駐屯地業務規程制定（本冊第六二四番各號）昭和三十二年一月十日限之ヲ廢止ス

「本規定」配布ノ受ケタル駐屯部隊駐屯地外ニ移動セントスレバ、以テ本規定ヲ司令部ニ返納スヘシ

昭和二十年一月二日

「マングレー」駐屯地司令官 粕谷留吉



第一章
第二章
第三章
第四章
第五章
第六章
第七章
第八章

目

次
總則
駐屯地司令官職域
防衛
軍秩
軍紀
風紀
軍需
器材
防疫
衛生
定例
報告
其他

第一章 總則

第一條 本規程は、本林第一〇三五部隊長カ、シテ、駐屯地司令官

タル期間駐屯地勤務ヲ行ハルニ必要ナル一般ノ事項ニ関シテ規定ス

第二條 駐屯地勤務ニ関シテ本規程ニ規定スル以外ノ事項ニ就テハ

衛戍令、衛戍勤務令ニ示スル所ヲ準用スルニテ、兵器ノ使用ニ関シテハ

要務令ニ據ル

尚、本第一〇三五部隊作戦地域防衛規程ヲ制定セリ、且、本規程ニ

準用スルニテ、

第三條 「シテ」駐屯地司令部（以下章ニ司令部ト稱ス）ハ本林第一〇三五

部隊本部内ニシテ設ケ

第四條 司令官兼業務ハ本林第一〇三五部隊本部ニ於テスル兼掌ス

第五條 司令官兼業務執行ハ為司令部ニ駐屯地副官ノ置ケ

駐屯地副官ハ本林第一〇三五部隊副官ヲシテ無効カ又シ

第二章 駐屯地司令官ノ職域

○第六條

駐屯地司令官以下單二司令官上稱込。駐屯地故言備。及陸軍秩序軍紀用紀監視並陸軍屬之建築物資材等保護示防波。官掌。

第七條

司令官駐屯地勤務関之表第百五元部隊長監督。駐屯地司令官。駐屯地勤務関之表第百五元部隊長監督。駐屯地司令官。駐屯地勤務関之表第百五元部隊長監督。

○第八條

駐屯地司令官。駐屯地勤務関之表第百五元部隊長監督。駐屯地司令官。駐屯地勤務関之表第百五元部隊長監督。駐屯地司令官。駐屯地勤務関之表第百五元部隊長監督。

○第九條

駐屯地司令官。駐屯地勤務関之表第百五元部隊長監督。駐屯地司令官。駐屯地勤務関之表第百五元部隊長監督。駐屯地司令官。駐屯地勤務関之表第百五元部隊長監督。

第一章 防衛

駐屯地司令官。駐屯地勤務関之表第百五元部隊長監督。駐屯地司令官。駐屯地勤務関之表第百五元部隊長監督。駐屯地司令官。駐屯地勤務関之表第百五元部隊長監督。

駐屯地司令官。駐屯地勤務関之表第百五元部隊長監督。駐屯地司令官。駐屯地勤務関之表第百五元部隊長監督。駐屯地司令官。駐屯地勤務関之表第百五元部隊長監督。

駐屯地司令官。駐屯地勤務関之表第百五元部隊長監督。駐屯地司令官。駐屯地勤務関之表第百五元部隊長監督。駐屯地司令官。駐屯地勤務関之表第百五元部隊長監督。

石

○ 第一條 但此處巡警之不足更以臨時派定之人員

○ 第二條 但此處巡警之不足更以臨時派定之人員

○ 第三條 但此處巡警之不足更以臨時派定之人員

○ 第四條 但此處巡警之不足更以臨時派定之人員

○ 第五條 但此處巡警之不足更以臨時派定之人員

○ 第六條 但此處巡警之不足更以臨時派定之人員

○ 第七條 但此處巡警之不足更以臨時派定之人員

○ 第八條 但此處巡警之不足更以臨時派定之人員

○ 第九條 但此處巡警之不足更以臨時派定之人員

主下駐屯地軍秩、軍紀風紀、取締任ス、トス
第十三條 駐屯各部隊宿營地（集積場及倉庫等ヲ含ム）ノ敬言備ハ自

隊兵力ヲ以テスル本則トス

第十四條 敬言報ヲ分テテ六ニ龍敬言報、~~出動警報~~、~~非難警報~~、防護敬言報トス

出動警報、敵空挺部隊ノ降下ニ際シ或ハ降下ヲ豫察シテ其
対策ヲ必要トスル場合ニ於テ發令ス

防護敬言報、敵機ハ地上散ニ方ヲ待避、対空戰鬥、消防及斯防護
救護等防護作業ニ要スル場合ニ於テ發令ス

第十五條 空龍敬言報及出動警報ハ司令官、防護敬言報ハ各部隊長
之ヲ發令ス、解除スル本則トス、之等ヲ他ノ部隊長ニ委嘱スルコトナ

各種敬言報、傳達為、信號及傳達要領別紙第四、如シ

第十六條 出動警報ニ際シ於テ各部隊ノ行動ニ就テ對空輸挺身
隊等ヲ付近警備並ニ戰鬥計画ニ據テス

第十七條 謀略防護必要トスル場合、各部隊ノ行動ニ就テ前條
規定ヲ準用ス

第六條

左ノ通定ル

駐屯地、防空（航空隊及高射砲隊）ヲ以テスルコトヲ除クニ限シテハ

(1) 駐屯地ノ防空軍官民ヲ通シ司令官ニテ統制ス

(2) 各部隊毎ニ乃至數個ノ對飛監視哨ヲ設ケ空襲報告報發令

トシテ又晝夜間ノ間ハ直接敵機ノ行動特ニ落下傘謀者等

降下ノ間ニ監視セシムルニテ、對飛監視哨ノ服務ニ關シテハ關係

對飛監視哨ハ各部隊毎ニ軍隊内務令ニ據ル防護監視哨

ト以テスルコトヲ得

(3) 各部隊ノ宿舎、倉庫等ハ之ヲ分散セシメ彈藥、燃料、油脂

等ノ危險物、宿舎ヨリ離隔シテ分テ防護施設ヲ完備スルヲ要ス

(4) 各部隊ノ常ニ高資材等ヲ爲所要ノ防空壕ヲ完備シタルヲ要ス

特別隊ヨリノ連絡者等出入多ク部隊ニ於テハ之等ヲ考慮シテ

分テ施設ヲ完備シタルヲ要ス

(5) 防禦上必要ナル機材ハ自働車ノ前方硝子反射防止トシテ

保護ス

偽裝掩蔽之特必要ナリ

一般官民ニ對シテ前項ニ準ジ指導ス

⑥管制：戒嚴式及此之嚴密管制ニ分リ駐屯地ニ於テ常時警戒管制

能ハレシニ在リテハ之ニ能ク警戒ヲ行フ

命令傳達

⑦駐屯地警戒：命令及解除ハ駐屯各部隊ニ傳ヘ官民團體

ハ之ニ對シテ

之ヲ爲シ之能ク警戒命令中駐屯地衛兵駐屯各部隊及地方官

民團體ヲシテ交通要路ニ赤旗ヲ樹立シ交通禁止理及待避

指示ニ遺儀ニナカフニシ

⑧特命令：特命令ニ場合外一切交通停止ス

⑨警戒：警戒管制ノ確迅速ヲ期スル爲メ駐屯地ニ於テ

之ヲ行フ

⑩警戒：警戒管制ノ使用及警戒用信號類似ノ信號ノ使用

⑪警戒：警戒管制ノ常時警戒管制ハ能ク行フ

⑫警戒：警戒管制ニ移ル

警戒管制中屋內より直射光線、屋外濺洩ヲ嚴禁シテ空警管制中、屋
外ニ於テ一切燈火、材火、發煙等ヲ絶對停止ス

○(1) 運行自動車燈火、常時警戒管制態勢ニ置キ、實施不十分者ハ
運行ヲ中止セシム

自動車燈火管制要領左ノ如シ

(1) 前照燈、別紙第五及第六ノ如ク施設ス

(2) 側燈、點燈セズ

(3) 尾燈其他、燈火、透光若クハ透視距離三〇〇米以下ニ減光ス

○(2) 空警管制警報、防護警報發令アリタル場合、通行許可自動車輻ハ左記
通り、但シ無燈火行進セシムルモノトス

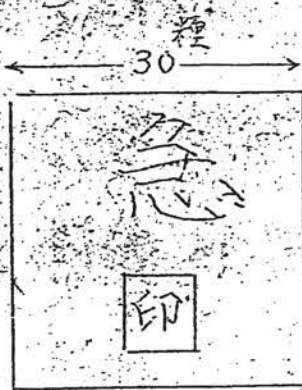
左記

一 作戰上眞ニ緊急止ムヲ得サル要致カテ有テ車輛

ニ消筋、救護諸機關

三 刻々猶豫ヲ得サル重症患者積載車輛

前項左記車輛ニ左圖ノ標旗ヲ附セシム。該標旗ハ駐屯地司令部ニ於テ保管シ必要ノ都度自動車手ニ貸與ス。



第十九條 空襲ニ依リ被害地ニ一般ニ關係ナキ軍人軍屬特ニ軍部外者、

文及附近狀況ノ撮影ヲ禁ム。

第二十條 空襲直後被害現場ニ於テ一般官民ノ統制指導ハ現場總

支隊員各種民防衛團体責任者之ヲ行フ。狀況ニ依リ司令官自ラ

統制ニ任ス。

第二十一條 空襲ニ依リ被害地調査ハ司令部救急備隊ニ依リ

最寄司令部解除後二時間以内被害狀況ヲ司令部ニ報告ス。

第二十二條 救護開始ハ司令部ハ兵站診療所行方ニ依リ

連繫下傷病者、診療任之、各部隊及民間團體、於之、夫、為

得、限、自、隊、體、救、護、任、之、ト、ス、

駐屯地防謀、閉、シ、テ、左、通、送、ス、

各部隊防謀、閉、シ、テ、左、通、送、ス、

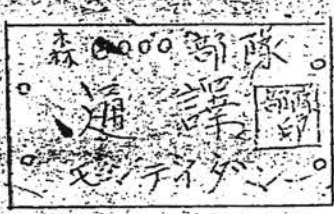
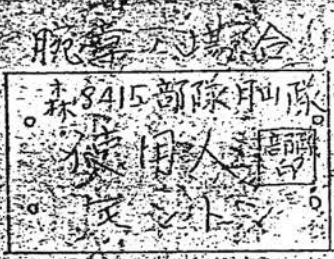
防謀、重、點、隊、外、於、之、將、兵、言、動、及、書、類、等、隊、外、流、出、其、

防謀、重、點、隊、外、於、之、將、兵、言、動、及、書、類、等、隊、外、流、出、其、

防謀、重、點、隊、外、於、之、將、兵、言、動、及、書、類、等、隊、外、流、出、其、

防謀、重、點、隊、外、於、之、將、兵、言、動、及、書、類、等、隊、外、流、出、其、

防謀、重、點、隊、外、於、之、將、兵、言、動、及、書、類、等、隊、外、流、出、其、



胸章 臂章 場合



○(1)野戰郵便所以外、取扱其ノ私信及私報ヲ禁止ス

○(2)軍機動時期等ノ重要時期ニ時駐屯地ニ滞留スル部隊特ニ

左點ニ注意スルベトス

(1)宿營ニ分散配置スルベシム

(2)行軍移動ニ成可ク小縱隊トシ且時期的ニ不規ヲ交ルル如ク遊山

○(3)敵情並ニ土民其他ニ関スル情報ヲ得若クハ宣傳物件取等

認メタル場合ニ速ク司令部若クハ最寄憲兵隊ニ報告通報シ落

下傘ニ依リ降下兵ヲ逮捕シ司令部ニ最寄憲兵隊ニ連行スルベトス

○(4)第五條 司令官、防諜上其他必要ト認メタル場合私服ヲ許可セザル

ベシ。此際司令官、發行セル私服許可證明書ヲ携行シテトス

○(5)第六條 駐屯地電話網別紙第七ノ如シ

○(6)第七條 駐屯部隊、暗號電報取扱ニ関シテハ本林第一三二〇部隊電

報發信統制規定ニ據ル

○(7)第八條 軍秩軍紀風紀

○(8)第九條 駐屯地於此軍秩軍紀風紀ヲ確立ス

ル為駐屯部隊一時滯留部隊通過部隊長ハ自己責任ニ於テ
部下並督運遺憾ナキヲ期セント共將校進テ他隊軍人軍屬ト
雖テ矯正之義務アルトス

第三章條 新駐屯地駐留若クハ通過セントスル部隊ハ速キ連絡
者ヲ司令部ニ先發セシメ所要ノ連絡ヲナスト共部隊到着ハ速キ
隊長若クハ將校(此ヲ得ヤハ准士官以下)ヲシテ其旨司令官ニ申告
セシムルモノトス

部隊駐屯地以外ニ移動セントキ亦前項ニ同シ

第三章條 駐屯地所謂遊兵ヲ滯留セシメサル為凡テ駐屯地勤務ニ服ス
者自ラ責任於テ取締ルモノトス

第三章條 駐屯部隊若クハ一時駐屯地ニ滯留スル部隊駐屯地ヲ去ルニ方リ
隊屬貨物等ヲ駐屯地ニ残置セントスル場合ハ司令部ニ其有物等
種類數量監視ノ方法等ヲ届出テ認可ヲ得ルモノトス
司令部成シ得ル限リ之ヲ適當ナル部隊ヲシテ保管セシメ以テ徒ニ監視

為三兵員を残置（一）時ヤシカル共ニ要成ナリ、形度ノ能ホ、員方ニ多ク
 〇第三條 駐屯地内ヲ運行シ自動車ハ左記規定速度ヲ嚴守シ事故
 絶無ヲ期スルベシトス

左記

車種	市内		市外		摘	要
	乗用車 （含 側車）	貨車	乗用車 （含 側車）	貨車		
乗用車 （含 側車）	三〇ノリ以下	三〇ノリ以下	六〇ノリ以下	六〇ノリ以下	各渡船場停車場より一ノリ以内ノ地域 市外ト雖モ市内ト看做ス	
貨車	三〇ノリ以下	四〇ノリ以下	三〇ノリ以下	四〇ノリ以下		
部隊	二〇ノリ以下	三ノリ以下	三ノリ以下	三ノリ以下		
備	〇鐵道踏切通過ノ時豫メ列車近接ヲキテ確認シタル後最後速度 三ノリ通過スルベシトス 〇夜間ニ在リテ前號ヲスル危険ヲキ速ニ更ニ低下スルベシトス					

〇第三條 駐屯地内ヲ運行スル自動車ニテ空車若クハ積載量僅少ナル
 場合ガ多クテ便乗者ノ便乗ニ供シ車輛ノ有効ノ利用ヲ計ルベシトス
 第三條 各駐屯部隊ニ限外出日ノ概一週内（日勤務交代兵ハ夕
 〇第三條 其ノ自轉ノ命令官ニ統制ス
 前項指是外出自出ヲ實施シ得サリ駐屯部隊ニテ臨時ニ

兵符之類 外出可也トスルキハ部隊長ニ於テ豫メ司令官ノ認可

ヲ受ケルベトス

○ 第三章 條 一般外出日ニ於テ外出時限ハ一〇〇ヨリトシ兵(雇傭人)ニ在リテハ一丸〇〇迄トシ且下士官(軍屬)

ヲ合算シ以下ノ外出者ニハ外出證ヲ携行セシムルベトス

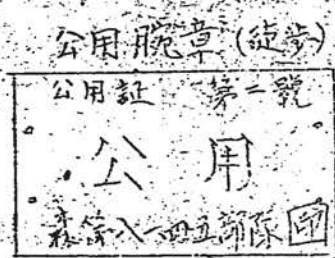
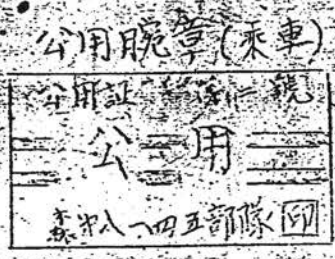
○ 第三章 條 外出區域ハ「マンダレー」若シテ地域トス(第九條別紙第一參照)

○ 第三章 條 各部隊長ハ一丸〇〇ヨリトシ下士官以下ノ外出者ハ服裝ヲ定ムルニ

方リ鐵帽、水筒、認語票、紺帶包ヲ携行セシムルベトス(但シ右ハ悉備)

ナキ部隊ハ其者自司令部ニ届告シ用ヒサルヲ得

○ 第三章 條 下士官以下ノ公用外出者ハ左腕ニ左腕章ヲ附着セシムルベトス



白布、墨書

(乘車ハ公用腕章ハ朱録ニ條トス)

狀況止ラテ得ヤル場合ニ腕章ニ代ルニ公用證(様式軍隊内務書ニ準テ)

ヲ以テスルコトヲ得

○ 第三條 外出中ノ軍人軍屬ノ行動ニ関シテ既ニ關係諸條ニ於テ要求スル所ニ據ルハ外左ノ通心得ヘシ

(一) 軍人軍屬ハ外出間常ニ軍紀ノ最肅敬禮、嚴正服裝ヲ端

正ヲ旨トスヘシ

(二) 軍人軍屬ニシテ空襲警報ニ遭遇スル速カニ最寄部隊ニ又ハ

附近ノ適地ニ待避スルモノトス

各部隊(衛兵)ハ前項待避者ノミナラス新來ノ通過者ヲ進シ

營内ニ避難セシムルヲ要ス

(三) 軍人軍屬ニシテ死傷者ヲ生シタル場合ニ最寄部隊ニ於テ之ヲ

收療スルコト及ビ所屬部隊ニ通報、處置ヲ執ルモノトス

(四) 外出者ハ空襲ニ依ル防護處理等ヲ爲最寄部隊ノ要求ニテ

タル時或ハ支障ヲ生シ難クシテハ之ヲトス

(五) 前三項ノ爲外出者歸營時向ニ遅ルハ處罰マルカ又ハ遅シタル場合

其七日關係部隊長ハ證明スルハトス

(6) 防護ニ特ニ注意ス

(7) 軍ニ於テ指定スル以外飲食店等ニ入り飲食スヘカラス (別紙十一參照)

(8) 慰安所ヲ利用スル者ハ帝皇ニ駐屯地慰安所規定(別冊)ヲ遵守スル

シミナラズ苟モ不徳義ノ言動ヲ為シ其名譽ヲ汚スコトアルヘカラス

(9) 將兵 外出間苟モ裸体、排尿、酩酊ヲ住民、眼前ニ暴露スヘカラス

第四條 小銃(機關銃、擲彈筒)ニ于テ榴彈ヲ含ム射撃場別紙第九ノ如シ

第五條 火砲射撃場別紙第九ノ如シ

第六條 前三條ノ射撃手場ヲ使用シ若クハ駐屯地内ニ於テ爆破作業

等ヲ行ハントス場合ハ部隊長ハ實施ニ日前迄司令官ノ認可ヲ受ケ下ス

第七條 日課時限基準別紙第十ノ如ク是ル

第五章 建物、軍需資材

第八條 駐屯地ニ於ケル部隊配宿ノタメノ家屋配當ハ司令部於該管掌ス

第九條 部隊若クハ軍人軍屬ニ供用シル建物、保存、火災保險附等

閣下司令官官署對其最終之責任前條最高直屬上官之責任

ハキテトス

第四條 部隊宿泊区域ニ軍隊内務令ニ趣旨ニ基キ有テ手段ヲ

盡シ居内外ノ区分ヲ明瞭ニ標示スル共ニ該区域内ニ般官民ノ子女

ヲ立入ルニテ嚴禁ス

第五條 駐屯間及一時滯留間各部隊及宿舍所有者ハ自テ責任ニ

於テ宿舎家屋及附近ノ清潔整頓ニ任シ家具等ノ保存取扱注意ニ

盡シテ進テ破損箇所ヲ補修シ附近ノ道路ヲ整備ス等常ニ

公德心發揚ト將テ利用者ノ便トヲ圖ルコトニ勉メ

第六條 駐屯地ニ在リ運管理家屋、假令破損シテ使用不能ナル

雖モ司令官官署ノ許可ヲ受テ破壊スルコトヲ禁ス

第七條 駐屯部隊駐屯地ノ去リ方リ司令官官署ノ許可ヲ受テ備附陣

營具(枕、褥、手板、等)ヲ搬出スルコトヲ禁ス

第六章 防疫衛生

第五條 傳染病豫防ニ関シテハ駐屯地防疫規定(別冊)ニ依リテハ

一 駐屯地軍用動物防疫規定(別冊)ニ據ルベシ

第六條 駐屯地内ニ於テ軍人軍屬ノ立入ヲ許ス飲食店、果菜店等

開シテハ別紙第十一通トス

司令官ハ狀況ニ依リ増減スルコトヲ得

第七項並ニヲ許ス者ニ軍指定軍進指定(喫茶店、飲食店)等

ト掲示ス

第五條 衛生上必要ナル場合司令官ハ適時駐屯地ニ立入禁止区域

ヲ設テ部隊及軍人軍屬ハ同地域内立入ヲ禁止ス

各駐屯地部長ハ其ノ宿營地附近ニ前項立入禁止区域ヲ必要トス

此事情發生セバ取敢テ自己ノ責任ニ於テ之ヲ断行スルト共ニ速ニ司令

官ニ報告通牒スルベシ

第五條 王城周邊ノ水濠ハ軍隊及住民ノ為唯一水源ナルコト

以于水浴洗濯等及釣臭ヲ除シ又汚穢物ヲ投入スヘカラズ

第五條 衛生機關ヲ有セザル處者ハ診療ニ関シテハ司令官之ヲ統制ス

第六條 司令官ハ駐屯地ノ衛生狀況ヲ詳知シ適宜適切ナル施設改善

ヲ實施スル為ニ衛生巡察ヲ巡遣ス 衛生巡察ハ司令官ノ直轄トシ衛生

巡察一組ヲ編組服裝資糧要領ハ第三種巡察ニ準ズル外別ニ

軍醫携帶資糧醫療要領ヲ携行スルモノトス

第七章 定例報告

第五條 駐屯部隊ノ別紙様式第一ニ據リ諸報告ヲ毎月末日ヲ以テ

調製翌月一日司令部ニ提出スルモノトス

第八章 其他

第五條 駐屯地會報ハ其ノ重要者ニ依リ司令官若クハ駐屯地副官

ニ傳ヘテ其ノ結果ヲ司令官ニ報告スルモノトス 但シ駐屯部隊長

會報司令官ニ傳ヘテ

駐屯地會報ハ毎月一日十日二十日ニ行フ例トス

第五條 駐屯部隊、滯留部隊及兵站宿舎、宿泊所、毎旦駐屯地
會報實施日ヲ除リ、連絡及書類交換、爲傳令一名ヲ司令部ニ

差出スルトス

第五九條 巡察報告、別紙第十二乃至十三、如シ、

該報告、勉メテ具體的ニ詳記シ、非違者及一般ニ賞讃スヘキ者ハ

其、所屬部隊(隊)官氏名ヲ明記スルモノトス、

第六十條 駐屯地内緬甸住民ニ對シテ勞力、物資等、提供、民防衛ノ

指導等、司令部ニ於テ統制シ、緬甸政府機關ニ要求スルヲ本

則トス、從テ各部隊ハ必要ナル場合司令部ニ申出テ其指示ヲ受

ケタル後、之ニ當リテ直接無斷折衝ヲ爲サルモノトス

マ駐居第五十四號

マシタレト駐屯地勤務規定制定件並送

マシタレト駐屯地諸部隊一般

マシタレト駐屯地勤務規定本冊通制定昭和二十年

一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

マシタレト駐屯地業務規定(本冊第六号)昭和二十年一月

十日限之ヲ廢止ス
二本規定(配布)受テ駐屯部隊駐屯地外ニ移動セントスルキハ

此ノ本規定ヲ司令部ニ返納ス

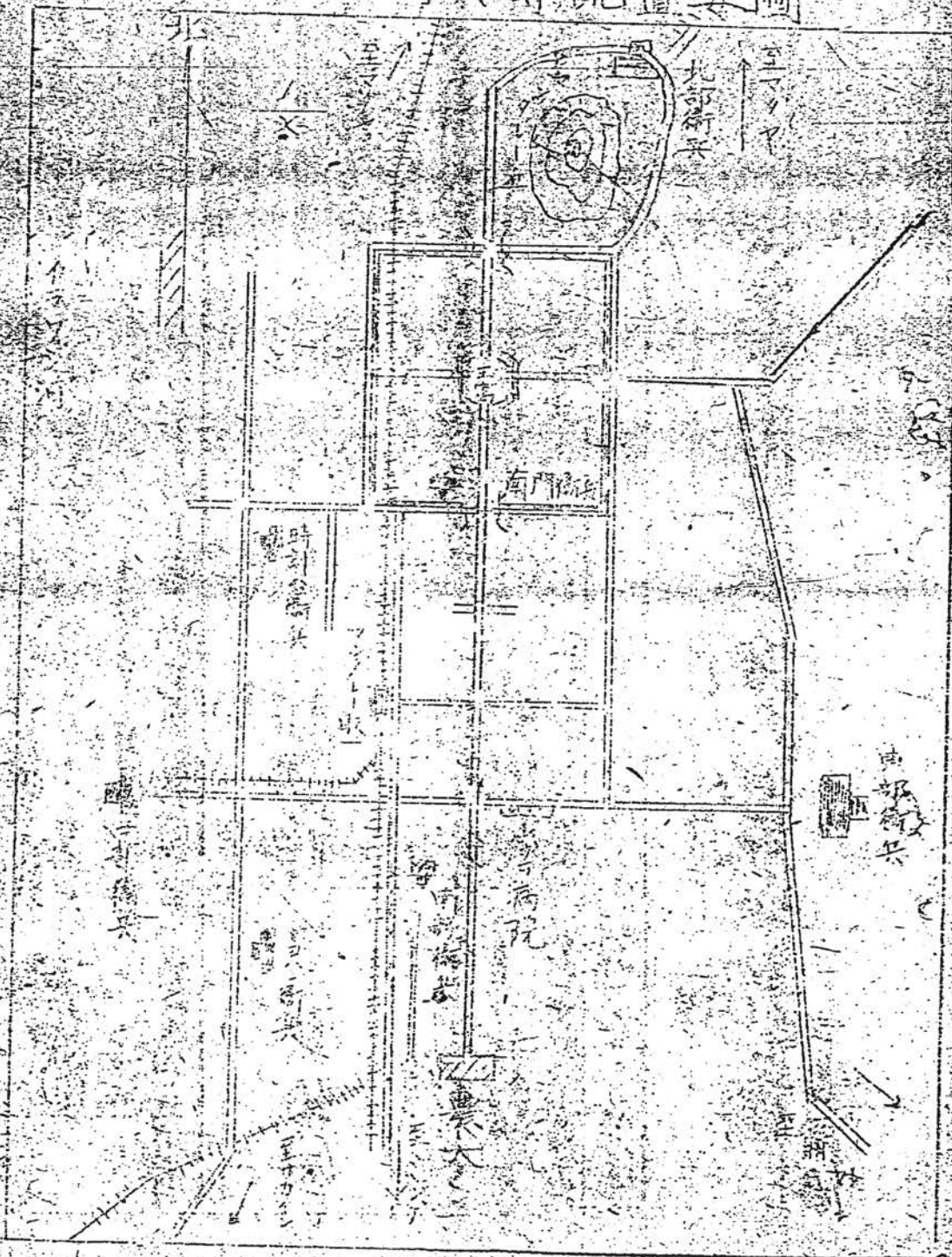
昭和二十年一月二日
マシタレト駐屯地司令官



第一章
第二章
第三章
第四章
第五章
第六章
第七章
第八章

次
總則
駐屯地司令官之職域
防衛
軍秩、軍紀、風紀
建築物、軍需資材
防疫、衛生
定例、報告
其他

駐化地衛兵等配置要圖 別紙第五



別紙第四

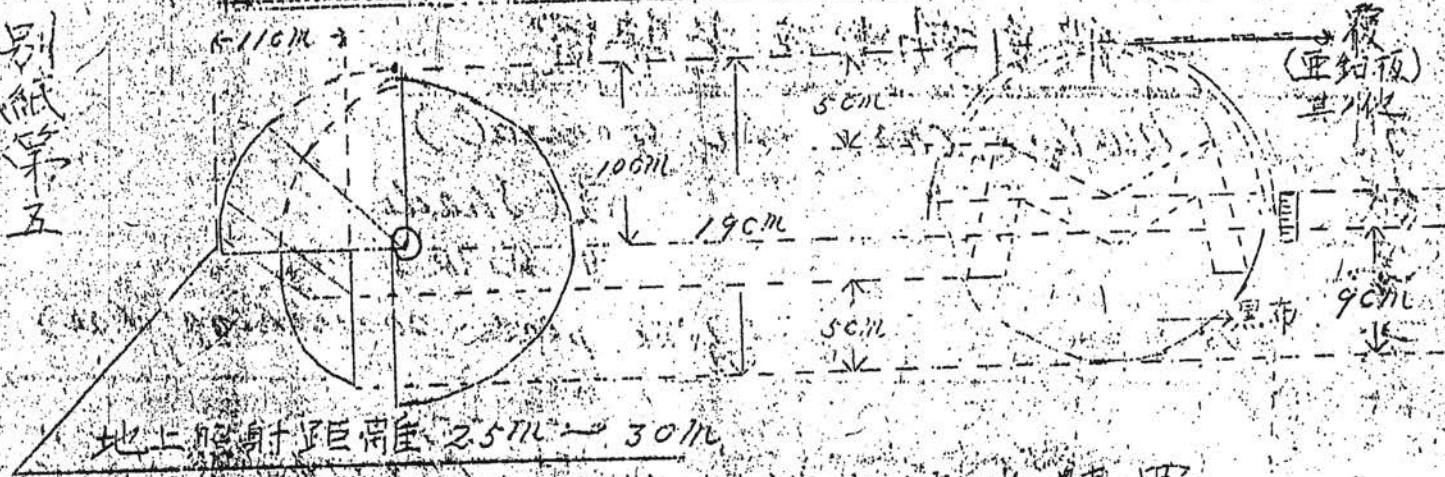
各種警報の種類及傳達法

警報種類	空襲警報	同解除	出動警報	備考
發令官	警令官	北官	北官	其他
傳達法	三秒間 六秒吹鳴五回	連續吹鳴	空襲警報上同様吹鳴 十秒間三回吹鳴	利用
其他	傳令	電話	電話	不

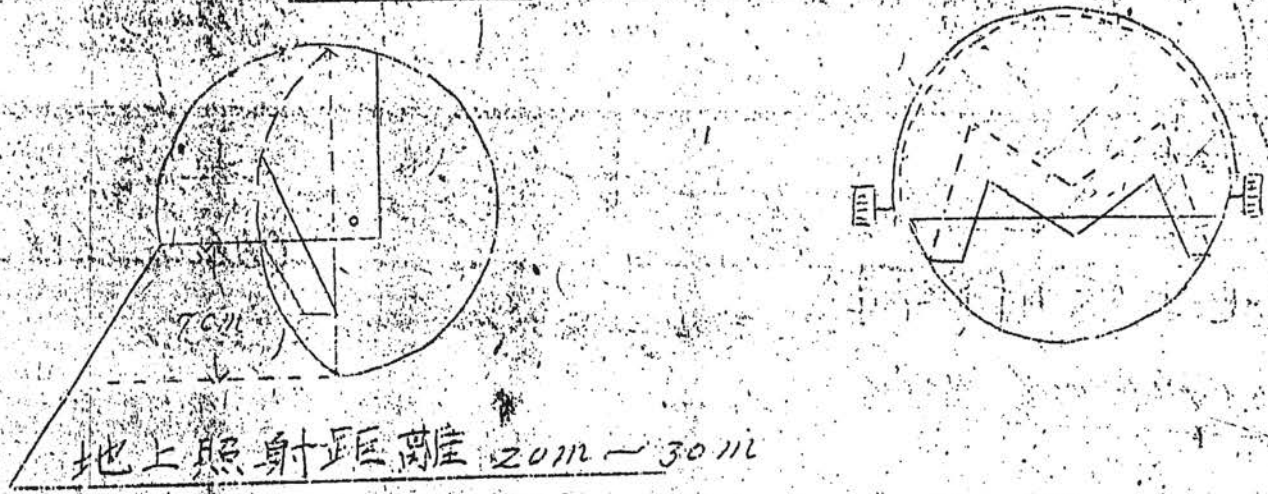
防空警報の種類及傳達法

陸軍制式自動車遠光裝置

別紙第五



陸軍海制式自動車遠光裝置



一般自動車遮光裝置

(Motor cars in General)

覆 (Shade)

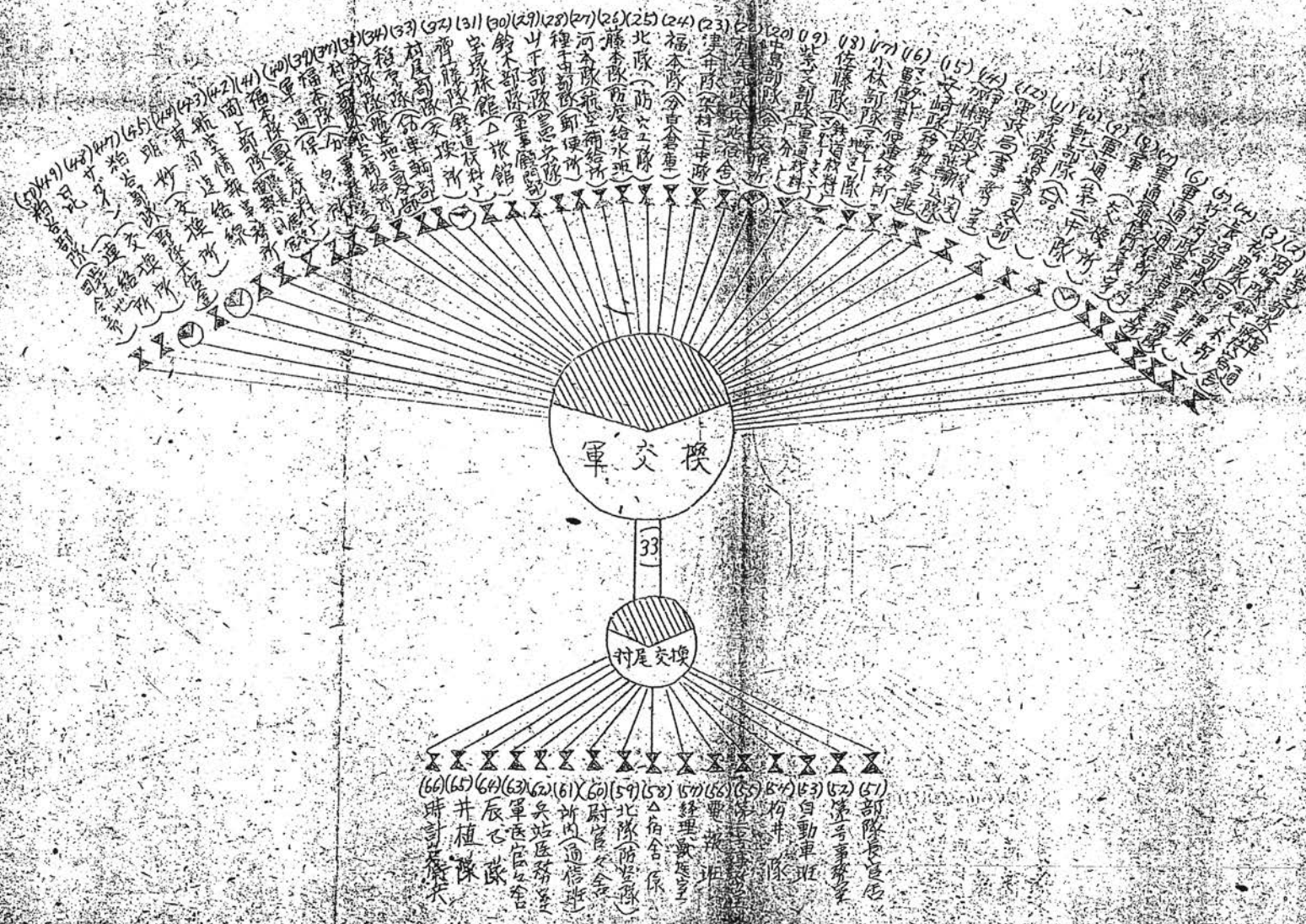
亜鉛板等 (Zinc plate something else)

(Zinc plate something else)

別紙第六



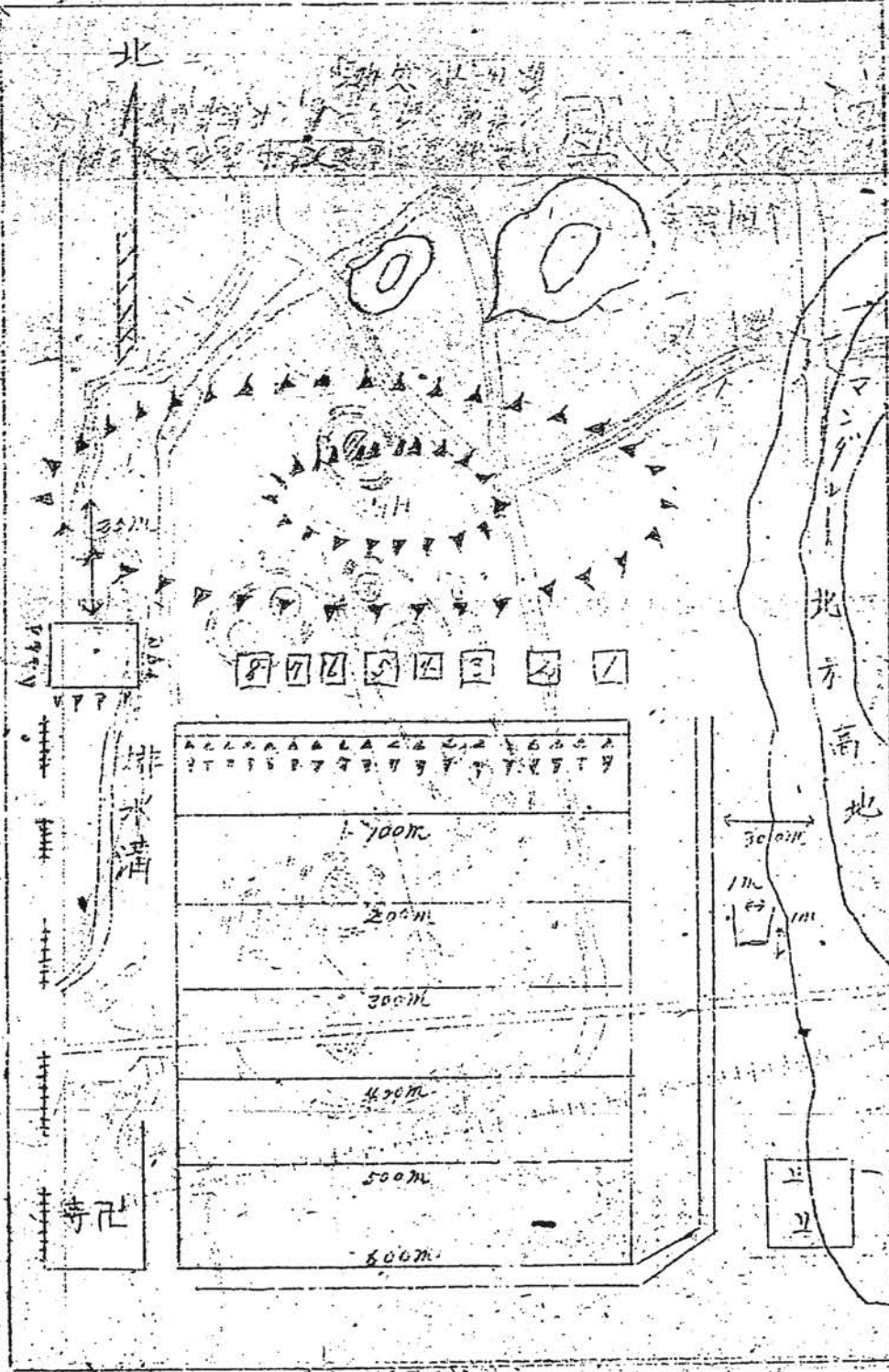
別紙第 文
マシケレ 交換加入部隊名一覽表



別紙第八

小銃射撃場

(機關銃擲彈筒并榴彈ヲ含ム)



北

北方高地

排水溝

寺元

300m

1m

10m

700m

200m

300m

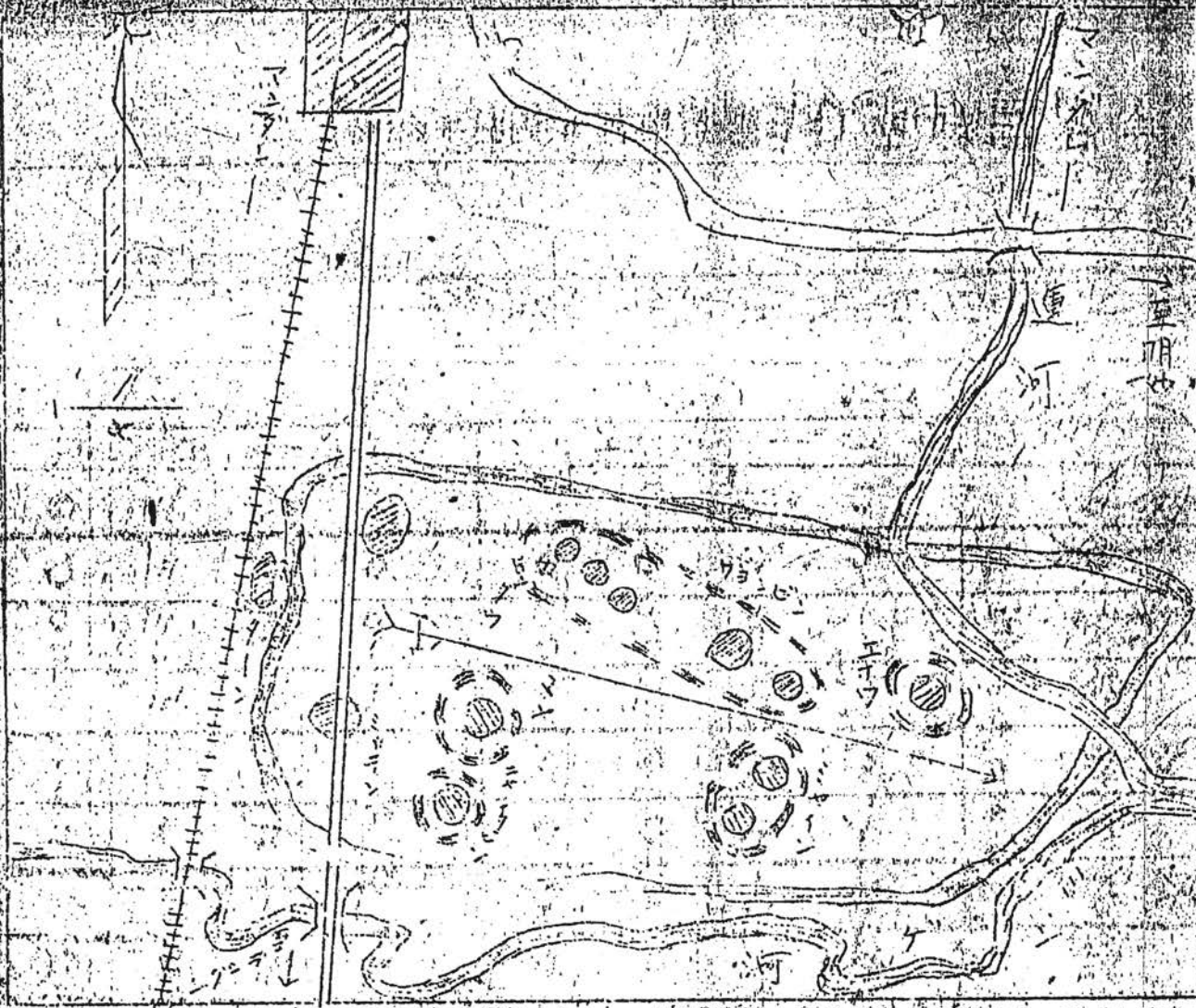
400m

500m

600m

8 7 6 5 4 3 2 1

11
12



引紙
 火炮射擊要圖

使南上注意
 內射擊場
 合每標

別紙第十

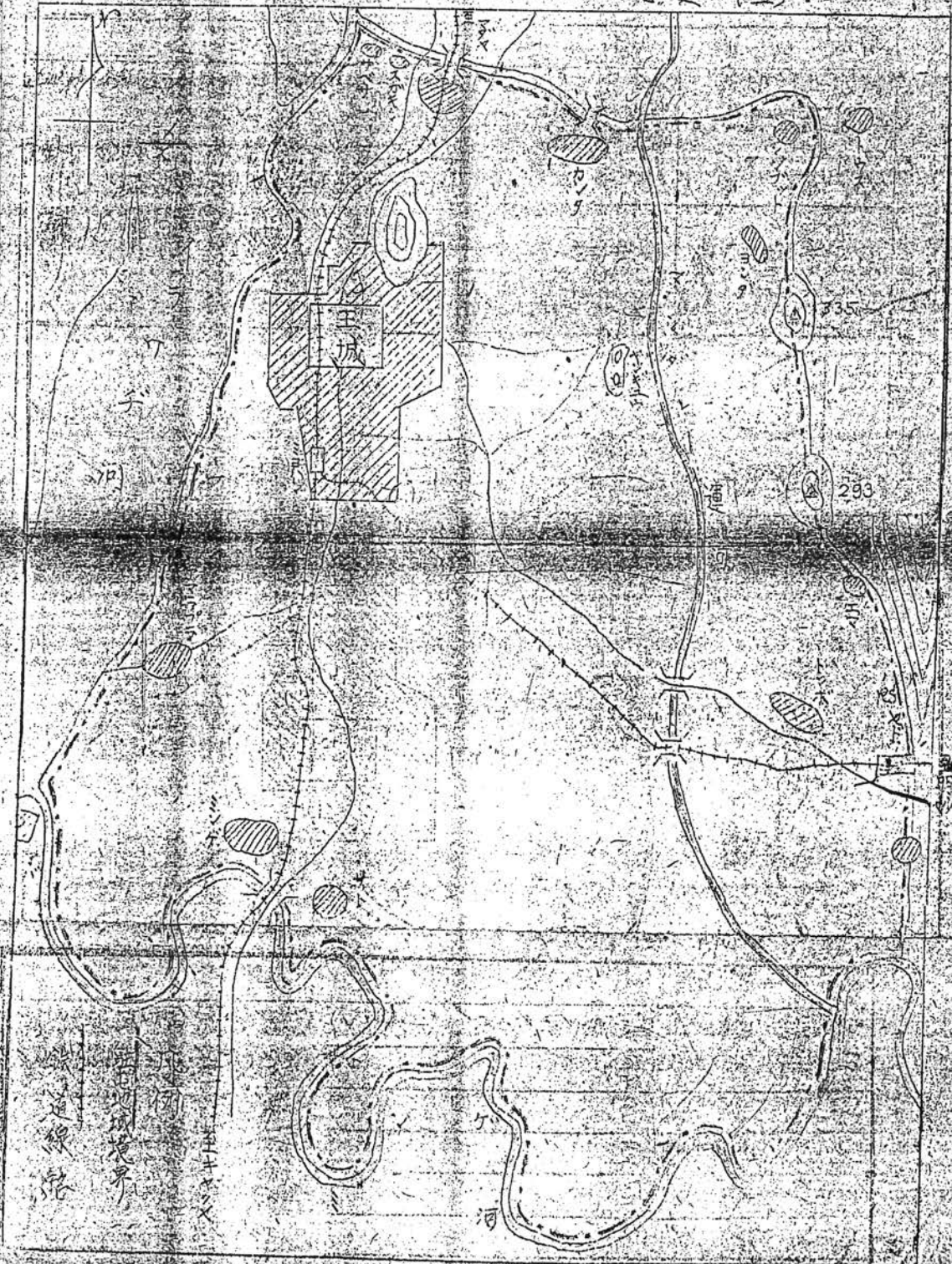
以下附近日課時限基準

日	業	時		限	
		十月	三月	四月	九月
日朝	食呼	〇	九	〇	六
朝	食	〇	〇	〇	三
教育訓練其他		〇	〇	〇	〇
昼	食	〇	三	〇	三
業務終了		〇	〇	〇	〇
夕	食	〇	〇	〇	〇
日夕	食呼	二	〇	二	〇
消	燈	二	〇	二	〇
備	考	〇	〇	〇	〇

調部 各部長 業務部長 於 定 本表時限 變更

別紙

マントレー駐屯地域要圖



鐵道線路
河
王城

別紙第二
駐屯地衛兵編成任務及差出區分表

衛兵名稱	兵力	備	差
東部衛兵	長	長	長
南部衛兵	長	長	長
各衛兵	長	長	長
西部衛兵	長	長	長
備	長	長	長
考	長	長	長
假	長	長	長
眠	長	長	長

對駐屯地長官... 任務... 差出... 區分... 駐屯地長官... 任務... 差出... 區分... 駐屯地長官... 任務... 差出... 區分...

衛兵種類	差出擔任部隊
東部衛兵	東部衛兵
南部衛兵	南部衛兵
各衛兵	各衛兵
西部衛兵	西部衛兵
備	備
考	考
假	假
眠	眠

軍指定軍准指定食堂慰勞所

別紙	事業種目	店名	販賣種目	定休日	摘要	
軍指定	飲食店	战友食堂	日本料理	一日	晝間、營業	
同	同	宮川食堂	同	八三	同	
同	同	マダレ食堂	支那料理	二三六	夜間、宴會、ミス	
同	同	菊屋食堂	日本料理	五二〇	營業時間 自一九〇〇至二四〇〇	
同	同	寶塚食堂	同	一二六	同	
雙准指定	飲食店	慶芳酒家	支那料理	九二四	晝間、營業	
同	同	昭和製菓	菓	子一五三〇	同	
同	同	進輝餅屋	餅	三六	同	
同	同	瓦城園	喫茶	一二六	同	
軍指定	慰勞所	樓	名	國籍別	定休日	摘要
同	同	迄乃家	内地人	八三	將校慰勞所	
同	同	萬來家	廣東人	一一二六		
同	同	東亜俱樂部	半島人	三六		
同	同	朝日俱樂部	同	五二〇		
同	同	菊園	同	九二四		
雙准指定	慰勞所	樂天地	ビルマ人	五三〇		
同	同	ビルマ館	同	三二八		
同	同	喜樂莊	同	一一六		
同	同	新緬館	同	八三	ビルマ兵補専用	

城王

梅乃家

軍指定
食堂
慰安所
要圖

食堂
慰安所



附註台

慶芳酒家



1/2500

刑部
刑部
刑部
刑部
刑部
刑部
刑部
刑部
刑部
刑部

巡
察
報
告
名
隊
部

官

名
氏

印

巡
察
日
時
場
所

○ ○ ○ ○
○ ○ ○ ○
衛 衛 衛 衛
兵 兵 兵 兵

月 月 月 月
日 日 日 日
至 至 至 至

巡
察
經
路

衛
兵

勤
惰

守
則

察

狀
解

理
解

狀
持

非
違

其
似

業
項

對
以

意
見

考
備

別紙十三

昭和
駐屯地
第...
種...
巡...
察...
報告
名

昭
和
年
月
日
自
至
〇〇
〇〇
〇〇
〇〇

巡
察
路

兵
禮
軍
屬
將
校
名
下
士
官
名
軍
屬
名
計
名

敬
禮

服
裝

儀
禮

非
為

行
為

事
項

察 狀 概 況

一
般
事
項
將
來
對
策
意
見

考
備